

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	一般社団法人ハンズハンズ 未来育ディ				公表日 R8年 1月 27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8			基準は満たしているが、体が大きい子、動きが大きい子が多いときは狭く感じることもある。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		利用者10人に対して、4,5人の支援員で見守りができるようしている。1対1での支援が必要なお子さんは、職員間で特性や支援方法を共有し、常に見守りの目が離れないようしている。	職員の欠勤等がある場合、一人ひとりのベースにあわせたり、じっくりかかわったりすることができないときがある。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	子どもにとって必要な情報を掲示し、シンプルでわかりやすくしている。視覚障害のお子さんが多いので、見通しをもって過ごすことができるよう、スケジュール表や各場所での約束事など視覚支援ポスターを掲示している。	階段上と下の柵の改修、ドアの段差のバリアフリー化ができると良いが、現状難しい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		利用者一人ひとりの成長や行動の変化に合わせて、教室内配置を常に柔軟に変化させて対応している。活動によって場の設定を考え、楽しく取り組めるようにしている。	毎日掃除や消毒等をして、清潔を保つことができるようしているが、建物自体の老朽化もあり、落とせない汚れや傷、錆等気になる箇所もある。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		必要に応じて個別の部屋、場所を提供できるようしている。	間仕切り、カーテン等があると良いが、職員の見届けが困難になることが懸念される。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		ミーティングで1日の振り返りをすることにより、活動内容や支援の充実を図るための改善策が練られている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者の方には毎年、評価表の記入を依頼し、その内容を精査して次年度の行事、業務計画に反映させている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日の終業ミーティングにて機会を設けている。改善策が見つかるとすぐに検討し、取り組んでいる。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		第三者評価について、専門の機関に依頼する必要があるため検討中。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		5月、12月の全体職員会、毎月のデイ職員会にて、今の職員の様子を見て必要な研修を行い、健康で安全に生活できるように、利用者に対する理解を深められるように努めている。	
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページにて独自の支援プログラムを公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		保護者からの聞き取り、子ども本人からの聞き取り、子どもの行動観察等からニーズ、課題を把握し、個別支援計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		児発管が原案を作成し、常勤の児童指導員、保育士と検討している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		毎月の職員会にてモニタリングの報告、今後の支援について共有している。一人一人の課題、目標に沿って支援を行うことができるよう、適宜検討している。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		年に一度、保護者にアセスメントシートに記入を依頼し、保護者から見た子どもの様子について把握することができる。全支援員のさまざまな視点で日々の行動観察を行い、適応行動の状況について適切に把握することができるようしている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		ガイドラインの内容を適宜確認し、本人支援、家族支援、地域支援の3つの視点からねらい及び支援内容を記載している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		1か月の見通しを持ち、また、年間を通して経験を積み重ねて、子どもたちの力の定着が図られるよう工夫している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		現在の子どもの興味や発達段階を踏まえてさまざまな活動、遊びを考案し、飽きないようにしている。楽しく参加することで、発達を促すことができるよう工夫している。	

供	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		子どもの状況や発達段階を踏まえて、集団活動をメインで行い、個別活動も行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	その日の支援内容や分担、配慮すべき事項等は必ず出勤者全員に口頭で伝えるようにしている。	送迎や出勤時間のズレ等で集まってミーティングをすることが難しいことが多い。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		毎日ミーティングを行い、支援の振り返りや気になる姿等を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	複写の記録用紙を使用し、事業所・保護者と双方で同じ記録を管理している。他に事業所内で管理している活動記録や、支援記録がある。	記録を取っているが、記録すべき事項の精査、すべての行動記録の徹底は難しい。また、支援記録を当日中に保護者に共有する事が理想だが、子どもの支援や見守りを優先しているため、当記入が間に合わないことが多く、次の利用時に渡すこともある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		モニタリング内容等について口頭報告に留まらず文章化して配布があることでより理解しやすく、職員間の周知が深まるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8		ガイドラインにおける4つの基本活動すべて行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		自己選択、自己決定ができるよう、日々のかかわりの中で自分の意思を行っている。 意欲的に活動に参加できるよう、活動時間、工作の材料等を選択させるなど、自己表現を広げられるようにしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管が参画している。	
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	相談支援員さんや保護者を通して情報共有を行っている。	日頃から密なやりとりができるわけではないが、必要に応じて行う。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		相談支援員さんや保護者を通して情報共有を行っている。送迎時などに機会を捉えて、簡潔に情報共有を行うよう心がけている。	日頃から密なやりとりができるわけではないが、必要に応じて行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	相談支援員さんや保護者を通して情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		相談支援員さんや保護者を通して情報共有を行っている。必要に応じて移行支援会議に参加したり、移行先の事業所と直接やりとりをしたりする。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		児童発達支援センターの方（福祉の里地域支援係 太田様）に事業所に来ていただき、話をしたり、虐待防止研修をしていただきたりして連携をとっている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	地域の施設や公園等においてかけに行つた際に、その場にいた子と同じ空間で過ごすことも良い経験だと思う。行事等できようが来所し、一緒に遊べることがある。	現状、地域の他のこどもたちと一緒に活動することは難しいと感じる。（音や人の多さへの過敏さ、自傷や他傷があるこどもと周囲の環境への配慮などの点で）
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	1	市が開催するこども部会に参加している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		活動記録にて日々の様子を記入し、共有している。送迎時、電話やLINE、メール等でも必要に応じて状況を伝え合い、共通理解を図っている。	送迎ドライバーがこどもを送迎することが多いので、事業所から自宅の距離が遠い子ほど、保護者と顔をあわせて話すことが少なくなってしまう。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	年に1、2回程度、保護者会にて、特性理解や対応力向上のための勉強会を行っている。 月1回（行事月除く）、希望者の面談・参観を行っている。	仕事等でなかなか保護者会に参加できない方もいるため、情報提供量に差があると感じる。不参加の方にも後日資料を配布する等検討中。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に資料をお渡しし、説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約時のアセスメント、半年に一度のモニタリングにてこどもや保護者の意向を確認している。子どもの最善の利益について、職員間で常に検討している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		送迎時に計画案をお渡しし、同意のサインをいただいている。	顔をあわせる機会が少ない保護者の方への説明不足があることへの懸念。付箋や別紙等で、内容や計画の意図等が伝わるように説明していきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		月1回の面談の際に、必要な助言や支援を行っている。連絡ノートやLINE、電話等でも随時相談を受付け、対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		長期休みにおたのしみ会等のイベントを行い、積極的に交流の場を設けている。	土日祝などの仕事が休みの方が多い日に事業所の休館日を設けているため、平日に保護者参加の行事を開催することが多く、参加しづらさを感じている保護者の方もおられると思う。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		必要に応じて行う。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月全体通信を発行し、活動や行事の様子、連絡事項を発信している。 Youtubeチャンネルにて、活動や行事の様子、支援の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報使用の承諾について、事前に承諾を得た子のみ使用している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		特性や発達段階、理解度等にあわせて話し方や、示し方を変えるなど配慮し、意思確認や情報伝達ができるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2	おたのしみ会に地域の方をご招待し、一緒に過ごす時間を設けた。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各マニュアルは全職員がいつでも見られる場所に置いてあり、年2回の全体職員会議にて訓練等を行っている。会議後に、LINEや通信等で家族に周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年2回の全体職員会議にて、研修や訓練を行っている。放dehy利用者は月1回、地震や火災を想定した避難訓練を行っている。	引き渡し訓練等、ご家族との連携、連絡の取り方にかかる訓練も折を見て行っていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		保護者にアセスメントシート、防災カードへの記入をしていただき、必要に応じてさらに詳細な聞き取りをし、確認している。	服薬している薬の種類や量が変わったタイミングを把握できないことがある。保護者の方に、一報入れていただくようお願いしている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		保護者にアセスメントシート、防災カードへの記入をしていただき、必要に応じてさらに詳細な聞き取りをし、確認したうえで対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		年2回の全体職員会議にて、安全管理に必要な研修、訓練を行っている。適宜、点検等を行い、安全に留意しながら支援を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画に基づく取組や研修内容に関して、全体通信やLINE等で保護者へ報告している。 避難訓練を行った際も連絡ノートを通して周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハット事案について記録し、共有、分析、再発防止に向けた検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		年2回の全体職員会議内で、虐待防止研修を行っている。日々の支援の中でヒヤリハット事例等を職員間で共有し、分析して、より良い支援ができるよう検討している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束や行動制限について、保護者に説明し個別支援計画に記載している。できるだけ行わないように支援を検討し、やむを得ず行った場合には記録を取り、保護者に説明している。	